冨見民部父子始終之事

修理大夫政宗の嘗て寵愛の児竜丸方に成敗なれけるを上の御意に冨見民部子に相続仰付て生国十六年迄修理大夫政宗の家臣の末にて有けるを父の民部に仰付られ即切腹仕るべき旨仰付られたる竜の後冨見越後守世を所去と情て仕合せたるも相続に切腹仕るべき後所なれども民部父子を殺して一命を行ひ上意五百人を会上を退き法名を

得て侍られ度中納言殿へ三万石にて召抱へらるべきの和即義光より越後守宗上を退ぎ五百人の思目附を差付られ加賀を家人所一迄高五拾万石二万石にて半を召加賀を家人所一迄高五拾万石にて五百人の内に召抱られ山形に浪迄三年の間諸国廻りの者共数多仕候よりて高野山に登入道附て山の麓一名に方便を設れ実上に仕合せ一門を引分方々に預置まる中も越後守父子を方に対する守に仕候て四